

福山大学大学院  
人間科学研究科

学力試験問題等

## 2026 年度福山大学大学院人間科学研究科心理臨床学専攻（修士課程）入試問題出題意図

### 1. 筆記試験（外国語）

外国語試験では英語を対象として、最近の心理学に関する論文等から出題しています。単なる英語能力ではなく、心理学に関する論文から出題することで、修士課程の研究及び修士論文作成に必要な、著名な研究及び最先端研究の英語文献に当たり、それらの研究を理解することで自身の研究を進めるに必要な英語力を有しているかを判断しています。

最新の研究成果は英語で発表されることがほとんどであり、英語文献の読解能力や、将来的に英語での論文執筆、国際学会での発表などを行うための基礎的な英語運用能力を測る試験となります。

著作権の関係から英語問題は非公開としています。なお、受験希望者の要望があれば開示できるようにしています。

### 2. 筆記試験（専門科目）

問1は論述問題であり、3つの問題の中から2つを選び解答してもらっています。論述問題では、単なる知識の暗記ではなく、「課題理解力」「思考力・分析力」「論理的な表現力」「独創性」といった能力を多角的に評価しています。このことで修士課程での研究活動及び修士論文作成に必要なとされる能力を有しているかを判断しています。

問2は用語説明であり、7つの問題から5つを選び解答してもらっています。用語説明では、心理学の学士課程で修得する用語を5つ選択して説明してもらい、修士課程でのカリキュラムで提供する高度で幅広い心理臨床分野の知識とスキルの修得が可能であるかを判断しています。

なお、問1の論述問題及び問2の用語説明は、下記の心理学の10分野から幅広く出題しています。

教育心理学	健康心理学
社会心理学	生理心理学
認知心理学	発達心理学
臨床心理学	犯罪心理学
心理学研究法	心理統計法

入学試験問題 専門科目

問1 以下の3つの問題(①～③)の中から2つを選び、解答してください。解答の際には、解答用紙の「番号」と書かれた欄に、選んだ問題の番号を記載してください。

- ① 「公認心理師法」において、教育機関を想定して、「秘密保持義務」の例外状況(本人の同意なく開示すること)について、具体的な例を示しながら、説明してください。
- ② 心臓に対する自律神経系の二重支配について、心拍数の変化とともに説明してください。また、ストレス課題を実施した場合に課題中の心拍数がどのように変化するかについて、考えられることを記述してください。
- ③ 臨床心理学における査定と、医学における診断には、どのような違いがあるのかを具体的に述べてください。

問2 以下の用語(①～⑦)の中から5つを選び、それらが意味するところについて解答してください。解答の際には、解答用紙の「番号」と書かれた欄に、選んだ用語の番号を記載してください。

- ① 確証バイアス
- ② 系統的脱感作法
- ③ 課題設定効果
- ④ アディクション(依存)
- ⑤ 錐体細胞
- ⑥ パニック症
- ⑦ 内的作業モデル(内的ワーキングモデル)

2026 年度福山大学大学院人間科学研究科心理臨床学専攻（修士課程）入試問題（第一次）  
解答例

1. 筆記試験（外国語）

著作権の関係から英語問題は非公開としています。なお、受験希望者の要望があれば開示できるようにしています。

2. 筆記試験（専門科目）

問 1

① 「公認心理師法」において、教育機関を想定して、「秘密保持義務」の例外状況（本人の同意なく開示すること）について、具体的な例を示しながら、説明してください。

【解答例】

事前に要心理支援対象（児童生徒や教職員など）に「秘密保持」に例外があることを説明し、同意を得る必要がある。

「秘密保持義務」の例外状況について、主に以下が想定される。

・明確で差し迫った生命の危険があり、攻撃される相手が特定されている場合

例：相談場面で、中学生がいじめてきた友人を殺すと発言し、ナイフを見せた。それを管理職に相談した。

・自殺など、自分自身に対して深刻な危害を加えるおそれのある緊急事態

例：相談場面で、高校生が「孤独感が酷く、生きていても仕方がない」と発言し、カッターナイフで自分の腕の血管に沿って縦に切っている傷をみせた。自殺を企図する可能性が高いと判断したため、管理職を通して、同居している保護者に連絡した。

・虐待などが疑われる場合

例：養護教諭から、コンサルテーションのなかで、「児童の身体測定をした際に、背中などにあざがあるのを発見した」と相談されたため、管理職に相談し、児童相談所に通告した。

・そのクライアントのケアなどに直接関わっている専門家同士で話し合う場合（相談室内のケース・カンファレンスなど）

例：所属する学校のケース会議内で、気になる生徒について、担任や管理職、教育相談担当と情報を共有した。

② 心臓に対する自律神経系の二重支配について、心拍数の変化とともに説明してください。また、ストレス課題を実施した場合に課題中の心拍数がどのように変化するかについて、考えられることを記述してください。

【解答例】

心臓は自律的に拍動する能力を持つが、その拍動は交感神経と副交感神経を通して中枢からの二重支配を受けている。両神経は拮抗して働いており、すなわち拮抗支配を受けてい

るとも言える。交感神経は心臓の活動を促進する一方、副交感神経は心臓の活動を抑制する。すなわち、交感神経の働きにより心拍数は上昇するが、副交感神経が働くと心拍数は低下する。安静状態の心拍数には、副交感神経活動の支配が優位である。

ストレス課題を実施した場合、一般的には課題中の心拍数は上昇する。例えば計算課題や面接課題などがそれにあたる。一方、視覚的なストレス負荷課題、例えば鏡像描写課題や迷路課題を求めると、心拍数は上昇しにくい。課題の難易度やコントロールの有無など、課題の質によっても異なるものである。

③ 臨床心理学における査定と、医学における診断には、どのような違いがあるのかを具体的に述べてください。

**【解答例】**

日本では、行為としての診断は医師にしかできない医療行為であるため、心理職には診断はできないという制約はある。しかし、臨床心理学における査定と医学における診断にはそれぞれ、以下に挙げるような特徴と意義がある。

まず、臨床心理学における査定は、被検査者の症状・病理だけでなく健康面も含めた心理状態や行動、感情、思考のパターン、また被検査者本人だけでなく環境要因も含めた総合的理解をめざすものである。一方で医学における診断は、特定の疾患カテゴリーの中に個人を位置づける行為といえる。診断と治療はセットであり、患者の具体的な疾患や障害を特定し、適切な治療方針を決定することを目的としている。また、臨床心理学における査定では、面接・観察・心理テストといったさまざまな方法によって多面的な把握が行われる。一方で医学における診断では、身体検査・血液検査・画像診断・病理学的検査などの客観的なデータに基づき、それらが特定の診断基準に適合するかどうかの評価される。さらに、臨床心理学における査定においては、治療関係の構築や、クライアントの自己理解促進、自己改善への意欲向上の支援に焦点が置かれる。一方で医学における診断は、疾患や障害の治療や管理に焦点を当て、患者との対話は主に情報提供や治療法の説明に焦点が置かれる。

このように、臨床心理学における査定と医学における診断には、主に目的・方法・介入の焦点において違いがあり、それぞれの領域において異なる役割を果たしている。

## 問2

### ① 確証バイアス

**【解答例】**

確証バイアスとは、自分の主張や仮説にとって都合の良い情報ばかりを収集、選択する心理的傾向のことであり、逆に、自分の主張や仮説を反証するような情報は過小評価されたり、無視されたりする認知バイアスの一形態である。例えば、ある血液型と特定の性格を結び付け、それ以外の情報は無視するような場合がこれに当たる。

## ② 系統的脱感作法

### 【解答例】

系統的脱感作法は、古典的 (レスポナント) 条件づけを理論的基礎とする行動療法の一技法であり、のちに発展した暴露療法 (エクスポージャー法) の一種であるとされる。南アフリカで戦争神経症の治療を行っていた精神科医ジョセフ・ウォルピにより開発された。不安や恐怖の生じる事象を、対象者の主観的刺激の強弱によって階層化する (不安階層表の作成)。さらに、不安を伴うイメージを弛緩状態のもとで生起させ、リラクセーション法 (漸進的弛緩法など) と組み合わせて不安の弱いものから段階的に暴露していく。不安はリラックスした状態と同時に体験できないという逆制止の原理を利用し、強い不安が徐々に弱い不安に変化することをめざす (拮抗条件づけ)。不安の強い不登校や、高所恐怖症やあがり症などに用いられる。

## ③ 課題設定効果

### 【解答例】

メディアが人々の心理に与えるとされる効果の 1 つである。社会で生じる事象には様々なものがあるところ、メディアはその一部を選択的に取り上げて報道する。これによって、ある事象についての報道の扱いが調整される。そして、その報道の多寡によって受け手は当該の事項がどれほど重要であるかについての認知を変える。言い換えれば、メディアは人々が重要であると考えられることを広く報道しているのではなく、メディアが広く報道することを人々は重要と考えるのであり、このような効果をアイエンガーの研究グループは議題設定効果と呼んだ。

## ④ アディクション (依存)

### 【解答例】

アディクション (依存) は、特定の行動や物質への強い欲求と制御困難な執着を特徴とする状態である。これには物質依存としてアルコール、薬物への依存、行為依存として、ギャンブル、インターネット、ゲームへの依存に大別される。依存は精神のおよび身体的な健康に深刻な影響を及ぼし、人間関係や日常生活にも悪影響をもたらす。依存のメカニズムは、脳の報酬系が過剰に刺激され、正常な制御機能が損なわれることで成立する。治療には、認知行動療法や薬物療法、対人関係の修復が重要であり、専門家の支援が必要とされる。依存は一度成立すると自己管理が困難になるため、早期の介入と継続的なサポートがその回復への鍵となる。家族や社会全体が理解を深め、支援することも依存からの回復の一助となる。

## ⑤ 錐体細胞

### 【解答例】

網膜の中心部に多く存在する視細胞の一種である。錐体細胞は主に明所で働き、色への感受性を持つ。錐体細胞には 3 種類あり、それぞれの錐体細胞が異なる分光特性を有している。L 錐体は主に長波長(あるいは赤色)に、M 錐体は中波長(あるいは緑色)に、S 錐体は短波長(あるいは青色)に対応している。

#### ⑥ パニック症

##### 【解答例】

パニック症とはパニック発作が繰り返し起こることで、またパニック発作が起こるのではないかという予期不安や発作によって起こる結果に対する持続的な心配を特徴とする不安症である。パニック発作は強い動悸、胸部の痛み、窒息感、めまい、吐き気などの症状が予期できない状況で突然出現する発作のことである。発作が起こりそうな状況や起こっても逃げられない状況を回避する行動が見られる。治療には薬物療法と認知行動療法の有効性が示されている。

#### ⑦ 内的作業モデル(内的ワーキングモデル)

##### 【解答例】

発達初期(幼少期)の、養育者との関係のなかで形成される認知的枠組み。発達初期に、養育者との関係によって「自分は他者から信頼される存在である(自己に関するモデル)」と同時に「他者は信頼できる存在である(他者に関するモデル)」といった自己および他者、そしてその両者の関係に対する信頼に基づいた心的表象。その後の人間関係に大きな影響を及ぼしていく。Bowlby(1969、1973、1980)は愛着理論の中で愛着に関する表象モデルとして内的作業モデル(Internal Working Models: IWM)の概念を提唱している。

入学試験問題 専門科目

問1 以下の3つの問題(①～③)の中から2つを選び、解答してください。解答の際には、解答用紙の「番号」と書かれた欄に、選んだ問題の番号を記載してください。

- ① 矯正施設における拘禁反応とは何か。その主な特徴を挙げた上で、発症の背景要因と施設内で求められる具体的な対応について説明してください。
- ② 段階的要請法 (foot-in-the-door technique) と 譲歩的要請法 (door-in-the-face technique) について具体的に説明してください。また、それぞれの方法で応諾率が高まる理由について説明してください。
- ③ 従来の個人を対象とした心理支援に加えて、予防的支援や地域志向の心理支援が重視されるようになっているが、その意義について論じてください。

問2 以下の用語(①～⑦)の中から5つを選び、それらが意味するところについて解答してください。解答の際には、解答用紙の「番号」と書かれた欄に、選んだ用語の番号を記載してください。

- ① 天井効果
- ② 森田療法
- ③ 教育機会確保法
- ④ 心理的モラトリアム
- ⑤ 高次脳機能障害
- ⑥ 単純接触効果
- ⑦ サイコロジカル・ファーストエイド

2026 年度福山大学大学院人間科学研究科心理臨床学専攻（修士課程）入試問題（第二次）  
解答例

1. 筆記試験（外国語）

著作権の関係から英語問題は非公開としています。なお、受験希望者の要望があれば開示できるようにしています。

2. 筆記試験（専門科目）

問 1

① 矯正施設における拘禁反応とは何か。その主な特徴を挙げた上で、発症の背景要因と施設内で求められる具体的な対応について説明してください。

【解答例】

拘禁反応とは、被収容者が拘禁環境に適応できずに示す心理的・身体的反応である。不安、抑うつ、幻覚、自傷行為などが典型的な症状である。特に収容初期に多く見られ、既往の精神疾患やストレス耐性の低さ、社会的孤立が発症に影響する。矯正施設では、心理学的アセスメントを通じたリスク評価と個別の心理的支援が不可欠である。初期面接やスクリーニングによって精神的脆弱性を把握し、必要に応じて臨床心理士や精神科医による継続的なケアを行うことが重要である。また、信頼関係の構築やストレス軽減のための心理教育、集団療法の導入も有効である。拘禁反応への適切な対応は、被収容者の精神的安定を図るだけでなく、再犯防止や円滑な社会復帰にもつながる。そのため、心理学的視点に基づいた包括的な支援体制の整備が求められる。

② 段階的要請法 (foot-in-the-door technique) と 譲歩的要請法 (door-in-the-face technique) について具体的に説明してください。また、それぞれの方法で応諾率が高まる理由について説明してください。

【解答例】

段階的要請法とは、はじめに小さな依頼をして、それに応じさせ、その後で本命の大きな依頼をする方法である。この要請法では、はじめに大きな依頼をする場合にくらべて、本命の大きな依頼に対する高い応諾率が得られる。一貫した矛盾のない行動を好むという一貫性欲求の関与（この場合、最初の依頼に応諾したら、次の依頼も応諾することが一貫した矛盾のない行動であるため）や、自己知覚理論（この場合、最初の依頼に応諾し、自分が協力的で共感性の高い人物であると自己知覚すること）によって、応諾率の上昇が説明されている。一方、譲歩的要請法は、はじめに大きな依頼をし、それをあえて断らせてから、譲歩するように、より小さな本命の要請をする方法である。この方法では、はじめに大きな依頼をした方が、より小さな本命の依頼に対して高い応諾率が得られる。譲歩の返報性（例えば、要請者が譲歩したのだから自分も譲歩すべきであるという考え）やはじめの大きな要請を

断ることによる罪悪感の喚起等が、応諾率の上昇に関わっていると考えられている。段階的要請法と譲歩的要請法は矛盾する方法のように感じるが、このように、それぞれの方法の応諾率上昇に関わる要因が異なっている。

③ 従来の個人を対象とした心理支援に加えて、予防的支援や地域志向の心理支援が重視されるようになってきているが、その意義について論じてください。

**【解答例】**

従来の心理支援は、心理的問題が顕在化した個人を対象とする治療的介入が中心であった。しかし、これだけでは支援を必要とする潜在的な層に十分手が届かず、問題の重篤化を防ぎきれない限界がある。これに対し、予防的支援は、問題が深刻化する前の段階で心理教育や早期介入を行い、問題の発生自体や深刻化を防ぐことを目的とする点に意義がある。予防的支援により、当事者の負担を軽減し、支援資源の効率的な活用にもつながる。一方、地域志向の心理支援は、心理的問題を個人の内的要因だけでなく、家庭、学校、職場、地域社会といった環境との相互作用の中で捉え、生活の場に根ざした支援を行う点に特徴がある。これにより、孤立の防止や支援へのアクセス向上を可能にし、多職種や住民との協働を通じて継続的な支援体制を構築できる。この両者は相補的であり、個人支援を補完しながら心理支援の幅を広げる重要な視点である。

問 2

① 天井効果

**【解答例】**

質問紙調査等で評価尺度（例えば、5件法の質問尺度）を用いた調査において、測定値が上限に偏っている場合を、「天井効果」という。逆に、低いほうに偏っている場合を「床効果」という。天井効果の判定として、平均値と標準偏差を足した数値が、最大値（5件法であれば5）より大きい数値の場合は、天井効果ありとされる。分析項目において、ある項目の回答があまりにも上限や下限に偏っている場合は、その質問項目は妥当ではないと判断される。

② 森田療法

**【解答例】**

日本が生んだ治療法の一つであり、1919年に森田正馬によって確立された心理療法である。神経症の治療に高い治療効果があることが明らかになっている。神経症患者に特有の「とらわれの機制」を打破し、「あるがまま」であることで、不安を抱えていても適応的に生きていくことを目指す。治療は絶対臥褥期（誰にも会わない）、軽作業期（軽い作業をし、日記をつけ始める）、重作業期（他の人と作業をする）、生活訓練期の各期から成る入院治療であり、入院を通して、患者が内在する「生の欲望」を発揮するよう促す。

### ③ 教育機会確保法

#### 【解答例】

2017（平成29）年2月に施行された。通称、「教育機会確保法」と呼ばれ、学校復帰を大前提としていた従来の不登校対策を転換し、学校外での「多様で適切な学習活動」の重要性を指摘している。

基本理念として、以下の5つが挙げられている。

- 1 全児童生徒が豊かな学校生活を送り、安心して教育を受けられるよう、学校における環境の確保
- 2 不登校児童生徒が行う多様な学習活動の実情を踏まえ、個々の状況に応じた必要な支援
- 3 不登校児童生徒が安心して教育を受けられるよう、学校における環境の整備
- 4 義務教育の段階の普通教育に相当する教育を十分に受けていない者の意思を尊重しつつ、年齢又は国籍等にかかわらず、能力に応じた教育機会を確保するとともに、自立的に生きる基礎を培い、豊かな人生を送ることができるよう、教育水準を維持向上
- 5 国、地方公共団体、民間団体等の密接な連携

### ④ 心理的モラトリアム

#### 【解答例】

本来は経済学用語であり、猶予期間を意味する。エリクソンはこの言葉を青年期の特質を示すために用い、青年期を心理的モラトリアムとよんだ。能力がまだ十分に発達していない青年に対しては、社会的な責任や義務がある程度猶予される。いくつかの選択肢について迷っているところで、その不確かさを克服しようと一生懸命努力している。人生に関するいくつかの可能性を前にして、アイデンティティの決定を延期しており、その決定のために努力している状態。「危機」は現在経験しているが、「積極的関与」はしようとしている状態。

### ⑤ 高次脳機能障害

#### 【解答例】

中枢神経系、特に大脳の損傷によって高次脳機能が障害された状態のこと。局在の明らかな脳の器質的病変があり、失語、失行、失認などの症状を持つ。さらに、日常生活または社会生活に制約があり、その主たる原因が記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害等の認知機能の障害であるものが該当する。その他、幻覚妄想や抑うつ、脱抑制などの精神症状やパーソナリティの変化を伴うこともある。

### ⑥ 単純接触効果

#### 【解答例】

刺激に繰り返し接触することによって、当該刺激に対してよりポジティブな印象を抱くようになる効果を指す。これは知覚的流暢性の誤帰属説によって説明されており、刺激への反復接触によって知覚情報処理の効率が向上する結果、刺激に対する親近性が高まる。その高まりが刺激そのものの好ましきとして誤って帰属されると考えられている。

#### ⑦ サイコロジカル・ファーストエイド

##### 【解答例】

災害や事件などのトラウマティック・イベントを経験した直後に提供される心理社会的支援方法の 1 つであり、早期介入によって当事者の自己回復を促進する要因を強化していく。エビデンスに基づいた国際的ガイドラインであり、治療ではなく、訓練を受ければ被専門家も含めて提供できる支援方法である点を特徴とする。

サイコロジカル・ファーストエイドの目的は、①トラウマティック・イベントによって引き起こされる苦痛の軽減、②安全や自己効力感の促進、③急性ストレス反応の正常化、④当事者を地域社会や支援に繋ぐこと、⑤短期・長期的な適応機能と対処行動の促進とされる。